

タイにおけるコミュニティ学習センターの実態と役割：

北部チェンライ県を対象として

The Current Status and Role of Community Learning Centres in
Northern Thailand:
A Case Study in Chiang Rai Province

学籍番号：201621615

氏名：篠崎 貴徳

Takanori SHINOZAKI

2015年9月に国連において持続可能な開発目標が策定され、すべての人々に対して包摂的で公正な質の高い教育と生涯学習の機会を提供することが、国際社会の教育分野における目標となった。これにより初等教育、及び中等・高等教育の普及や就業に必要な技能習得の機会をすべての人々に提供できるよう、各国の取り組みが期待された。

コミュニティ学習センター（Community Learning Centres、以下 CLC）は、地域住民に様々な学習の機会を提供するための学校外の教育施設である。タイは早い時期から学校外教育の拡充に向けた取り組みを進めており、CLCも全国各地に設置されている。

本研究の目的は、フィールドワークを通してタイの CLC の実態を明らかにし、設置地域にとっての CLC の役割を解明することである。研究課題は、CLC の施設の実態、活動内容の実施状況、及び CLC に関わる人々の実態について明らかにすることである。研究の対象は、正規の教育を受けることが困難であるタイ北部山岳地帯の住民への支援を行う CLC とし、訪問調査及び関係者へのインタビュー調査を実施した。

調査結果から、同地域における CLC は学校教育を補完するイクイバレンシー・プログラムのための教育施設として機能していることが明らかとなった。また CLC で実施されるプログラムには、住民の日常生活に直接結びつく実践的な内容も含まれていた。また、タイにおける CLC の役割は非識字の解消に伴い、地域住民のニーズに合致したプログラムを実施する公民館機能と地域住民が必要とする情報を適切に提供できるライブラリー機能を兼ね備えた、地域の生涯学習の拠点へと変化しつつあることが明らかとなった。

本研究は訪問した CLC の機能面の実態解明に限定されている。今後は調査する CLC の対象を拡大するとともに、職員養成制度やライブラリーの蔵書管理など、運営面の実態を解明することでタイ社会における CLC の位置づけを明らかにする必要がある。

研究指導教員：吉田 右子

副研究指導教員：平久江 祐司